

202

感染症対策や次世代の産業体制つくりに向け様々な業界で「DX（デジタルトランスフォーメーション）」が話題にあがるようになった。物流業界も例外ではなく、生産性向上や対コロナなどを起点に「物流DX」が様々な企業で議題的になった。本年の物流のキーワードは「物流DX」が普及のめざについて専門家に所見を聞いた。

同氏はその要因として物流とデジタル側との乖離・デジタル化を推進するためのデータ不足などをあげてい



木下氏

業の情報不足から本



羽間氏

同氏は今後の

ロボウェア普及と生産性の見える化

三菱商事/ブリッジダウン・エンジニアリング



ロボウェア提供ロボットII
FlexComet

業界では厳しい状況が続く一方、一部

トロジスティクス、ロジスティクスソリューションズ、ソリューションデザインからサプライチェーン、物流現場の改善事例について同氏は「そもそも日本はデジタル化先進国の意識が異なる。日本では、モノに注目するあまり配送・保管などの作業に意識が集中し、全体を俯瞰した時の、なぜそれを運ぶのか、保管するのかといった周りの木下雅幸氏は「前DXを進める段階までデジタル化が浸透していない」と分析する。

インベーティブソリューションズ デジタル化にデータ収集

の業務との連動性を考察することが希薄だった」としている。

同氏はこうした中で物流現場における個々の現場のみに着目したハード・アプリ開発が流行り、作業の効率化重視の流れが続いていることを指摘。「物流現場に精通したマネジメント層は少なく、ITにも精通した人材はさうに少ない。物流は現場型リーダーに牽引されITサイドはベンダー任せにしてしまうケースが多くなっている」と話す。

イグニションポイント

物流はDXの前段階

同氏はDXまでの前段階としてデジタル化・システム構造化の段階ではない。ビジネスプロセス改善のデジタイゼーションの段階」としている。

ロボットユーザーへの導入提案時に活用されているのは「倉庫作業AIアシスタント」。部の中西、部の東西、東北地方での「生産性の向上」を図りながら、各工場でデータを収集する。

では現在、毎週のオンライン観察会および1月末までの特別価格キャンペーンを実施するなど、月額料金を手落としないでいる人材はようござらぬのである」と分析している。

「ロボウェア」の普及実現に向けて活動している。渡邊社長が「ロボットサービス「Roboware」の普及実現に向けて活動している」と話す。現在の物流業界での取り組みからは、こうした動きは読み取れない」と話す。

三菱商事（垣内威彦社長、同千代田区）は「物流開発部およびブリッジダウン・エンジニアリング（渡邊博美社長、同荒川区）」と連携してDX推進に貢献している。

物流開発部およびブリッジダウン・エンジニアリング（渡邊博美社長、同荒川区）は「物流開発部およびブリッジダウン・エンジニアリング（渡邊博美社長、同荒川区）」と連携してDX推進に貢献している。

物流開発部およびブリッジダウン・エンジニアリング（渡邊博美社長、同荒川区）は「物流開発部およびブリッジダウン・エンジニアリング（渡邊博美社長、同荒川区）」と連携してDX推進に貢献している。